

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	脳を育てる運動療育センターこどもプラス秦野渋沢教室		
○保護者評価実施期間	2025年1月4日		～ 2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数) 24名
○従業者評価実施期間	2025年1月4日		～ 2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14名	(回答者数) 14名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育の活動プログラムを行っている。利用者は遊びを通して楽しみながら身体を動かすことができ、身体の使い方について覚えることができる。また運動療育を通して小さな成功体験を獲得できそれによって自己肯定感が上がり自尊心を高く持てる。	運動療育のプログラムの内容は固定なものではなく毎日担当者によって工夫している。 利用者の年齢層や発達段階や特性に応じたプログラムの提供をしている。	今以上に利用者に一人ひとりに合わせた特性や発達に合わせた運動療育を行っていき運動機能向上や一つでも出来たと思える成功体験を得られる機会を増やす。
2	小集団での活動(SSTやグループワーク・社会スキルを学ぶ)を行う中で社会性やコミュニケーション能力の向上、集団での活動のルール理解などを活動を通して学ぶことができる。	SSTを用いてグループワークを少人数での活動を通して行っている。グループワークの中で自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いてどう感じたかなど職員と一緒に考えながら活動を行うことができている。社会スキルについては洗濯物のたたみ方やお金の使い方、ゴミの分別の仕方など社会に出るまでのスキルについて学ぶことができる。	現在行っているグループワークの中でペアワークを増やし、「助けあう・協力する」機会を意識的に作り利用者同士の関わりを更に深められ、社会スキルについては社会で使うスキルの一つでも多くふれあう機会を増やす。
3	イベント活動や課外活動を行っていて利用者が体験や経験できる。	学校休業日の時間を使いファミレスやフードコートに昼食を食べに行ったり、車両センター見学やカラオケに参加する。教室内ではお菓子作りをするなどイベント活動や課外活動を通して利用者に様々な体験できる機会がある。	公共交通機関の使い方や防災センターへの課外活動など課外活動を通して今までとは違う新しい経験を得られる機会を増やす。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラム活動に関しては小集団での活動が多く個別指導という観点では弱みである。	活動プログラムを行う中で集団での活動を中心として行うため、個別指導を行う活動はほとんどできていない。	利用者の要望に応じて個別指導での活動を増やして行けるしていきたい。
2	保護者やきょうだいが参加しやすいイベントの機会が少ない	保護者間の交流を図るイベントが少ないため、家族支援が行き届いていない家庭がある。	次年度以降に家族が参加できるイベントを検討し、保護者支援・きょうだい支援につながる活動を実施していく。
3	マニュアル関係に説明について周知されている家庭が少ない。	利用契約締結時に必ず説明を行っているが伝え方やお知らせの仕方が上手く利用者理解や把握されていないことがあり、周知されていない方もいる。	保護者との面談時や送迎時などコミュニケーションを取れる機会を通して今後の共有方法を検討していく。